

ラーメンを農業から～地域産原料にこだわったラーメンチェーン展開～ (株式会社 やなぎやのうえん)

<法人の概要>

所在地：岩手県紫波郡紫波町

設 立：平成 25 年 5 月

資本金：100 万円 売上高：748 万円（平成 26 年）

役 員：3 名（うち農作業従事 3 名）

従業員数：0 名、うち農業従事者 0 名

経営面積：12ha 営農作物：小麦

農業開始時期：平成 20 年 5 月



紫波圃場



小麦の収穫風景

<農業参入に至った経緯・動機>

元祖キムチ納豆ラーメンをはじめ、創業者である大信田和一が作り上げたラーメンを、次の世代がどのように受け継いでいくか。クオリティを高めるために注目したのは、県産食材を使用することです。今後、県外・海外へと店舗を展開する上で、岩手の食材で勝負しようと考えました。ラーメンと言えば、麺は小麦。県産小麦 100%のラーメンを提供したいとの考えから、平成 20 年から小麦（ゆきちから）の自家栽培を開始しました。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

平成 20 年、農業参入を決めるも、最初は手口をなかなか見つけられずにいました。そんな時、大信田和一の出身地、大迫町で農業を営む友人から、農地を三反歩借り、元は田んぼだった場所を小麦畑に転用する形で農業参入を実現しました。

平成 23 年には果樹の老木化、降ひょう被害等により果樹農家が生産をやめた農地の借受けについて、農業委員会やいわて農業参入支援センター等の協力のもと、地権者とのマッチングが実現し、本格的に営農を開始しました。

<営農開始から現在まで>

営農を開始した当初は、周囲の農家の方々に、当社の取り組みをあまり理解されないこともありました。しかし、コツコツと営農を続けて3年程経った頃から、周囲の目も変わってきました。加えて、岩手銀行のアグリチームが新たな農地取得に尽力してくださったこともあり、紫波町の果樹園跡地を確保することができました。

また、オリジナル小麦粉「Oッ粉」として自社製麺工場での製麺に活用しているほか、自社精肉所では県産ブランド豚を精肉し、ラーメン店で提供しています。

平成 25 年には農業部門を分社化し、農業生産法人「株式会社やなぎやのうえん」を設立しました。

さらに、地域の都市農村交流協議会と連携し、同協議会が開催する地域イベントで自家製麺を使用した料理を提供するなど、地域の活性化にも貢献しています。

<今後の農業経営の展開方向>

農家の方々が高齢化し休閑地も多いと聞きますが、企業として農地を探そうとすると、なかなかみつからないのが現状です。ですが、当社としては今後もさらに農地を拡大していきたいと考えています。そのために、農地中間管理事業活用によって、農地が取得しやすくなることを期待しています。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

大切なのは、周囲の農家との調和です。農家の方々は企業が農業参入すると聞くと、不信感を抱く方も少なくないようです。当社は岩手銀行の協力により、「銀行がバックアップしているなら」と、早期に信頼していただくことができました。

農業参入にはたくさんの可能性がありますので、これまでの概念にとらわれずに突き進んでほしいと思います。



製麺の様子



キムチ納豆ラーメン